超入門WebAssembly

~入門では収まらなかったバージョン~

2025.01.17 Fri. 東京Ruby会議12 前夜祭

近藤 うちお (@udzura)

SmartHR プロダクトエンジニア



初めにお断り...

- 元々「超入門 WebAssembly」というタイトルで応募していました、が、入門レベルでは収まりませんした。
- なので発表タイトルがただの「WebAssembly」になります(?)

自己紹介

近藤 宇智朗 (@udzura)

株式会社 SmartHR (2024/11~)

プロダクトエンジニア 労務基本機能担当

Fukuoka.rb (かってます!

10年ほど池袋住んでたということで ...

マイブーム: WebAssembly、中学受験



テーマ: WebAssembly



WebAssembly とは

- ブラウザで動かせるバイナリ形式のこと
 - いろいろな言語(C,C++,Rust,...)をコンパイルして、バイナリを作り、それらをブラウザの上で実行できる
- WASMとも呼ぶ
 - 短くしたいときこの表記になるぐらいの使い分け(か?)
 - 仕様・概念をWebAssembly、実プログラムをWASMと呼ぶ傾向はありそう

WebAssembly とは

色々なところで

- ブラウザで動かせるバイナリ形式のこと
 - 0 !!!
 - o つまり...??



e.g. WASMはターミナルでも動く

- ターミナルで WebAssemblyのプログラムを実行可能
 - 例えば wasmtime というコマンドで実行できる:

> wasmtime --invoke fib ./fib.wasm 20 2>/dev/null
6765

WebAssembly のメリット

- <u>言語を選ばずに</u>バイナリを作れる
- そのバイナリは、ブラウザを中心に <u>いろいろなところで</u>動かせる
 - Write Once, Run Anywhere なのじゃよ...
- 多くのランタイムで高速に動くことが期待できる

WebAssemblyの動かし方

- WASMランタイムには色々ある(Wasmtimeなどが有名)
- WASMプログラムも、何言語で書いても OK
 - 一般には C、C++、Rustをコンパイルする

ブラウザや



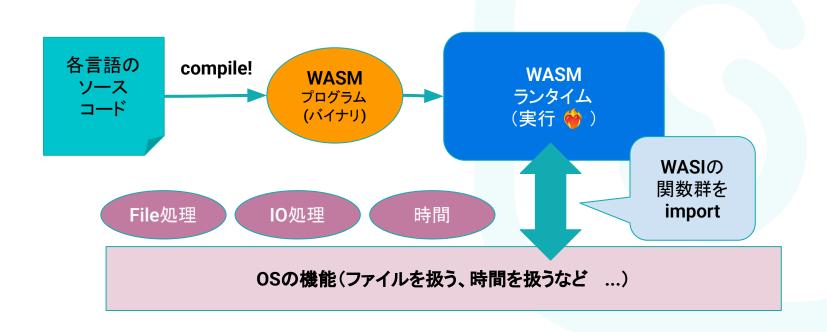
(S) SmartHR

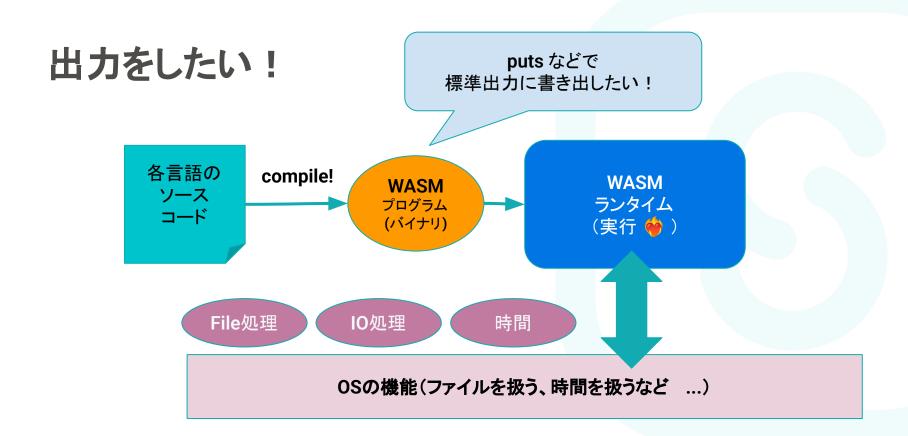
WebAssemblyの大事な概念

WebAssembly System Interface について

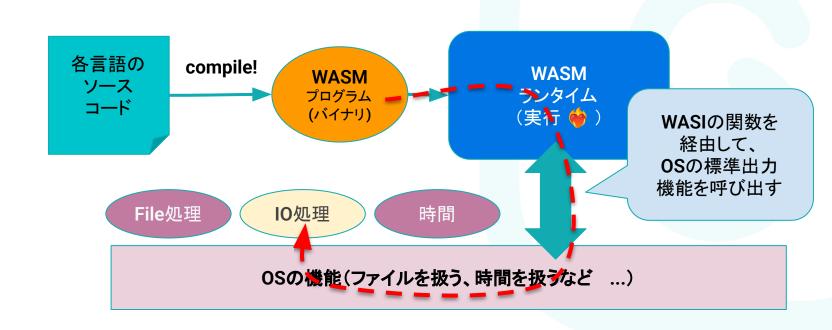
- WASMとOSの機能(ファイルを扱う、時間を扱う ...)を 繋ぐ仕様が WASI (WebAssembly System Interface)
- WASM自体はOSの機能を仕様に含んでいない
 - OSの機能を扱えるようにした拡張仕様のようなもの

WASI のざっくりした概念図





WASI を通してOSの機能を使う



WASI の補足...

- preview1とか2とか聞いたことがあるかもですが ...
 - preview 2はComponent ModelというWASMの次世代仕様に 沿ったシステムインタフェース
 - 今広く使われているのは <u>preview 1</u>、という点を 覚えておけば一旦 OKです!

WASI の話は後半で登場します!



WebAssembly & Ruby



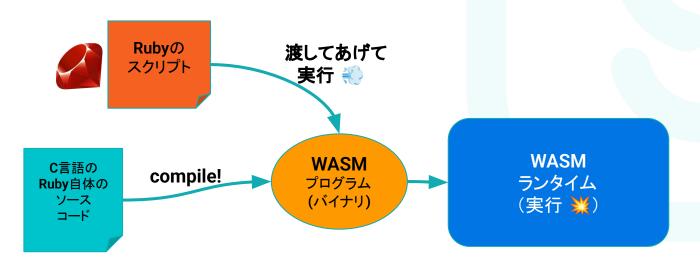
Ruby で WebAssembly といえば

- ruby.wasm ですよね
- 公式な
 - "RubyをWASMで動かす方法"



ruby.wasm の世界観

● 基本的には、RubyのCコードを丸ごとWASMバイナリにし、 スクリプトを動かしている



ruby.wasm は実はどこでも動く

ランタイムとして、ブラウザでも、Wasmtimeのようなcli toolでも、様々な選択肢がある



WebAssembly と Ruby と私

WebAssembly x Ruby 関係で...

• OSSをいくつか作ってます!

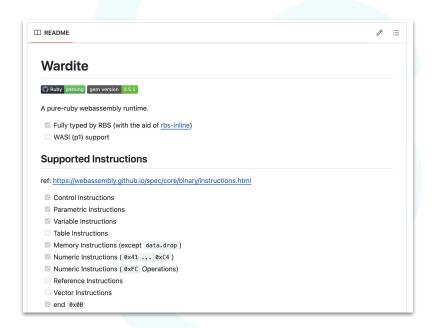


私が 作りました

• 最近の生活そのものなので軽く紹介します

Wardite

- @udzura の有休消化中に開発
- Rubyで書いた
 - WebAssemblyランタイム

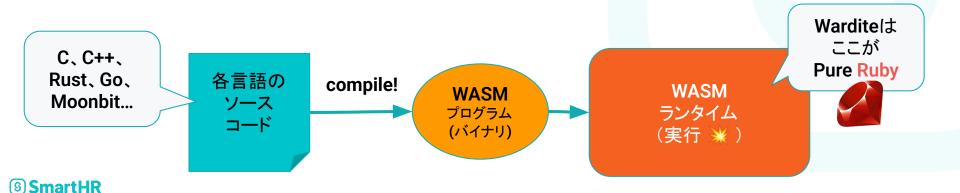


Wardite is ...?

- Rubyで書いたWebAssemblyランタイムとは、つまり
 - WebAssemblyのバイナリプログラムを動かすための 環境やライブラリのこと
 - これがあれば WASMを動かせます! 一式セット
 - という理解でOK

Wardite の立ち位置

- Wardite is <u>ランタイムの方</u>をRubyで書いたという話
- 色々な言語で書いた WASMプログラムを実行できる



おまけ: もう一つ OSSを紹介



mruby/edge

※ 正確には… mec (mruby/edge compiler)というツールも 別にあってそれでバイナリを作っています

Rubyのスクリプトを WASMバイナリに固める OSS Project

eBPF, WASM, LLVM, MP4 Media File

Format and other binaries, A

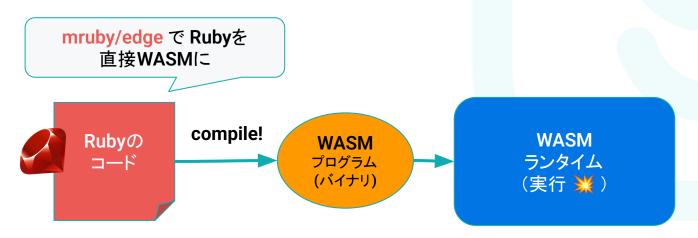
- RubyKaigi 2024 で話した
- その時から粛々と 機能追加している

Schedule C Back C Back C Back An mruby for WebAssembly The author is developing "mruby/edge", a specialized Ruby runtime for WebAssembly (WASM). C C Web WebAssembly The author is developing "mruby/edge", a specialized Ruby runtime for WebAssembly (WASM). One of the reasons the author started to build a new runtime is that he aimed to create a smaller wasm binary than CRuby's, which is 18 MB (observed from 3.3.0 build). A reduction in binary size addresses the diverse use cases of WASM. Additionally, mruby/edge associates Ruby methods with corresponding WASM-exported

functions. This is in contrast to the implementations of Ruby.wasm and mruby-wasmized-

mruby/edge is ... WASMバイナリを Rubyで!

Rubyスクリプト → WASMバイナリにコンパイルできるように作ったのが mruby/edge



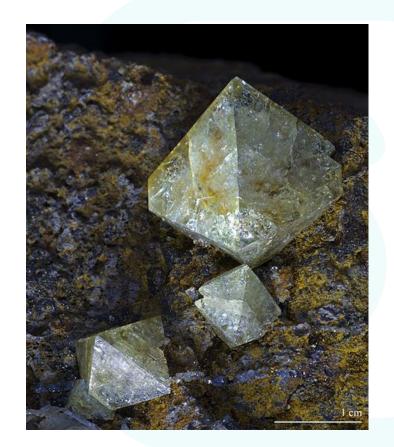


Wardite について詳しく



名前の由来

- WAで始まる鉱石の名前を採用
- ワード石: NaAl3(PO4)2(OH)42(H2O)



https://en.wikipedia.org/wiki/Wardite#/media/File:Wardite.jpg

Wardite の特徴

- Pure Ruby 製
 - 標準添付ライブラリ以外に動作上の依存なし
- Fully RBS annotated (Thanks to rbs-inline)



Wardite が達成していること

- WASM Core の基本的な
 - 命令を大体実装
- WASM Core = WASMO
 - 基本的な標準仕様
- WASI preview 1 も対応(予定)

Supported Instructions ref: https://webassembly.github.io/spec/core/binary/instructions.html Control Instructions Parametric Instructions Variable Instructions Table Instructions Memory Instructions (except data.drop) Numeric Instructions (0x41 ... 0xC4) Numeric Instructions (0xFC Operations) Reference Instructions Vector Instructions end 0x0B

参考: 先行実装

- technohippy/wasmrb
 - https://github.com/technohippy/wasmrb
 - Referecialな実装。綺麗なコードだけど、4年前最終更新
 - 1. WASIに未対応
 - 2. WASMの仕様自体も、未対応の箇所がそこそこある
 - ということで Warditeを推したいナ ...

なぜRubyでWebAssemblyランタイムを?

- C or Rustで書かれたランタイムを使うこともできる
 - Wasmtime, WasmEdge, Wasmer, …などがある
 - 拡張gemがある <u>bytecodealliance/wasmtime-rb</u> など
- 速度面もCなどが有利ではありそう

ですが...

bundle installしてこのメッセージが出た時の気持ち、 覚えてますか

Building native extensions. This could take a while...

• C拡張はちょっとインストールが手間な時がある

Pure Rubyであることのメリット

- <u>インストール・セットアップが簡単</u>
 - Rubyが動けば動く!
 - プラットフォームに依存しにくい(CPUの種類、OSの種類やバージョン...)
 - 可搬性のために依存ライブラリをなくしている

参考: Goの事例

- GoのC拡張組み込みの仕組み(cgo)も結構面倒...
- Pure Go の WebAssembly ランタイム wazero がある
 - Goはコンパイル言語だけど、WebAssembly + wazeroで 動的なプラグイン機構を実現したりしている
 - https://github.com/kngyf263/go-plugin

と、いろいろ言いましたが ...

面白そうなので作りました

Just For Fun...

- 開発のきっかけは「勉強目的」「なんか面白そう」
- 作ってみたら、思ったよりちゃんと動くので
 - 色々使ってみたい!
 - 実装を引き続き頑張るぞ

Wardite の動かし方



WASMのプログラムを作ってみよう

- 今日の例: Cでフィボナッチ数を求める関数です:
- WASM のプログラム自体を Cで書くのは一般的

```
1 int fib(int n) {
2   if (n <= 1) return n;
3   return fib(n - 1) + fib(n - 2);
4 }</pre>
```

これをWebAssemblyにコンパイル

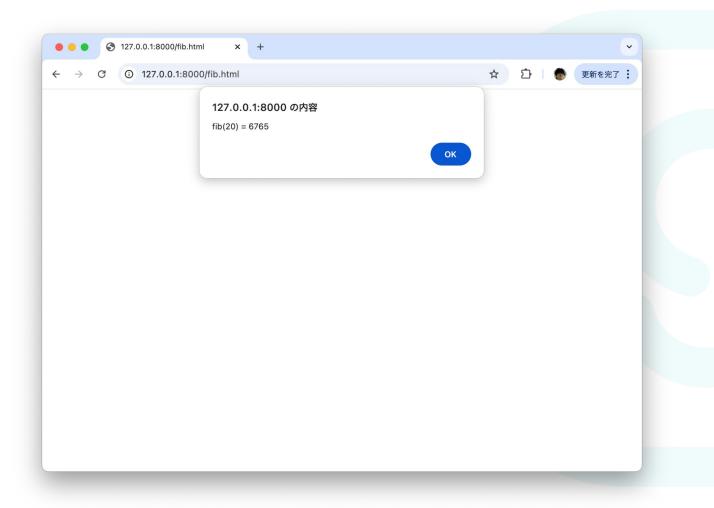
- 例えば、clangというCコンパイラで作れる
- fib.wasm というWASMバイナリを作成

```
> clang --target=wasm32 \
    --no-standard-libraries \
    -Wl,--export-all -Wl,--no-entry \
    -o fib.wasm \
    fib.c
```

ブラウザで使うには:

```
// WebAssemblyをfetchしてインスタンス化する
    WebAssembly.instantiateStreaming(
        fetch('./fib.wasm')
3
    ).then(obj => {
        // obj.instance にインスタンスがあり、
6
        // さっきの fib がexportされている
        const value = obj.instance.exports.fib(20)
        alert(`fib(20) = ${value}`);
8
    });
9
```







Warditeコマンドを使うには?

• gemにしているので、すぐインストールできる!

```
> gem install wardite
Successfully installed wardite-0.6.1
Parsing documentation for wardite-0.6.1
Done installing documentation for wardite after 0 seconds
1 gem installed
```



Warditeコマンドの結果

wardite gem と一緒にコマンドがインストールされます

さっき作った fib.wasm

```
> file ./fib.wasm
./fib.wasm: WebAssembly (wasm) binary module version 0x1 (MVP)
> wardite ./fib.wasm fib 20
warning: unimplemented section: 0x00
return value: I32(6765)
```

同じ fib(20) = 6765

Wardite を支える技術

ここから

- 内部実装の話です!!!
- やや難しい用語を説明なしに使ってるかもです、すいません…。

最初の実装

- ゴリラさんの「<u>RustでWasm Runtimeを実装する</u>」を参考に実 装を開始した
- RBSの練習のため rbs-inlineを全面的に有効にして書いた

どんな順番?

- 最初はとにかくデータ構造を把握
 - ref: Wasmバイナリの全体像
- バイナリパーサを書く
- 命令とVMを書く
- 命令を頑張って実装する(190個ぐらい)

```
00 61 73 6d | version 1 (Module)
       01 00 00 00
       01 06
                     type section
                     1 count
 -- rec group 0 (implicit) ---
 0xb | 60 01 7f 01 | [type 0] SubType { is final:
ed: false } }
       7 f
       03 02
                      func section
0x10 I
0x12
       01
                      1 count
0x13 |
       00
                      [func 0] type 0
       07 07
                      export section
0x16 |
       01
                      1 count
       03 66 69 62 |
                      export Export { name: "fib"
       00 00
       0a 1f
                      code section
0x1d |
                      1 count
======== func 0
0x20
       1d
                      size of function
0x21
       00
                      0 local blocks
0x22 |
       20 00
                      local get local index:0
       41 03
                      i32 const value:3
0x24
                      i32 lt s
 0x26
       48
0x27
       04 40
                      if blockty: Empty
                      i32 const value:1
       41 01
 0x2b
       0 f
                      return
                      end
```

※ 画像はイメージです

わからない単語がいっぱい ...

● 読み進めていて例えば <u>こういう表現</u>が

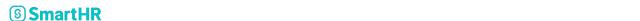
```
let (input, code) = le_u8(input);
let (input, size) = leb128_u32(input);

section code は1バイト固定なので le_u8() を使っている。
section size はLEB128<sup>[1]</sup>でエンコードされた u32 なので、値を読み取る際は leb128_u32() を使う必要がある。
```

- > ~section sizeはLEB128[1]でエンコードされた u32~
- LEB128とは…??

※ WASMバイナリはいくつかのセクションに 分かれている。

そのパースをする処理の説明での文言 ※本文にも解説はしっかり存在します



LEB128 (Little Endian Base 128) とは何か

- 数値のエンコーディングの方式の一つ。可変長方式
 - WASMバイナリの随所で登場する大事な実装

```
# - 0 ~ 6bit目:数値表現

# - 7bit目:次のバイトも使う

# - i番目の表現は << (7*i) して足す

[0b10101010, 0b01101101]

# この場合、

(0b10101010 & 0b01111111) | (0b01101101) << 7

=> 13994
```

Rubyで実装した例

```
def to_i_by_uleb128(bytes)
   dest = 0
   bytes.each_with_index do |b, level|
     upper, lower = (b \gg 7), (b \& (1 \ll 7) - 1)
     dest |= lower << (7 * level)</pre>
     if upper == 0
       return dest
     end
   end
   raise "unreachable"
end
to_i_by_uleb128 "\xAA\x6D".unpack("C*")
# => 13994
```



バイナリパーサ自体の実装

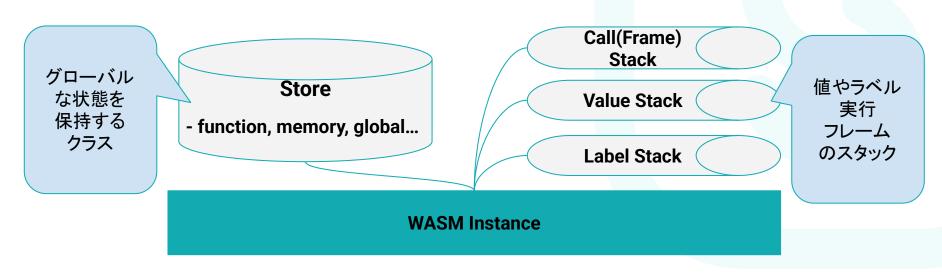
• 素朴に1 byte 1 byte取る感じにした。こういうコード

```
# @rbs return: Integer
def self.preamble
  asm = @buf.read 4
  raise LoadError, "buffer too short" if !asm
  raise LoadError, "invalid preamble" asm != "\u0000asm"
  vstr = @buf.read(4)
  version = vstr.to_enum(:chars)
    .with_index
    .inject(0) {|dest, (c, i)| dest | (c.ord << i*8) }</pre>
  raise LoadError, "unsupported ver: #{version}" if version != 1
  version
end # ...
```



VM周りの実装

• Runtime Structure を参照。以下のようなクラスを作った



VMの命令実行部分

- 基本的に一つ取得して実行、ループするだけ
- 命令は case 文で分岐する

```
# @rbs return: void
def execute!
  loop do
    cur_frame = self.call_stack.last #: Frame
    if !cur_frame
      break
    end
    cur_frame.pc += 1
    insn = cur_frame.body[cur_frame.pc]
    if !insn
      break
    end
    eval_insn(cur_frame, insn)
  end
end
```

共通の処理が多い(i32⇔i64、f32⇔f64)

• 数値の型が

違うだけの命令

Generatorで

まとめて

作るようにした

```
when :i32_add
  right, left = runtime.stack.pop, runtime.stack.pop
  if !right.is_a?(I32) || !left.is_a?(I32)
    raise EvalError, "maybe empty or invalid stack"
  end
  runtime.stack.push(I32(left.value + right.value))
when :i64 add
  right, left = runtime.stack.pop, runtime.stack.pop
  if !right.is_a?(I64) || !left.is_a?(I64)
    raise EvalError, "maybe empty or invalid stack"
  end
  runtime.stack.push(I64(left.value + right.value))
```

命令を楽しく実装していた頃





命令を楽しく実装していた頃

なんか入社直後に 趣味コードめっちゃ書いてるな...



Wardite で ruby.wasm は 動く?

再掲: Ruby で WebAssembly といえば

- ruby.wasm ですよね
- ですよね~



ruby.wasm をRubyで動かしたい...

- ruby.wasm を動かせるようにするのがマイルストーン
 - 現実世界の WASMプログラムを動かしたい
 - RubyでRubyが動いたぞ!って言いたいだけ
- そのためには WASI preview 1への対応が必要
 - Wardite の中で使うWASI関数もRubyで書く必要

WASIの関数の例

- 例: random_get()
- OSが用意した乱数を取り出すための関数
 - C言語(Linux)の getrandom(2)
- プログラムで普通に乱数を使いたいとき使う (自力でアルゴリズムを実装しないなら)

WASIの関数を実装するには

● 普通のRubyの

コードで乱数

を扱う

```
class WasiSnapshotPreview1
  # @rbs store: Store
  # @rbs args: Array[wasmValue]
  # @rbs return: Object
  def random_get(store, args)
  buf, buflen = args[0].value, args[1].value
  randoms = SecureRandom.random_bytes(buflen) #: String
  store.memories[0].data[buf...(buf+buflen)] = randoms
  0
  end
end
```

● こういう感じの関数を 90個ぐらい用意すれば完了 ...

で、ruby.wasmは動いたの?

- デモをします!
- Live ruby.wasm bootstrap challenge!!!!



Demo.....



まとめと今後



Pure RubyでWASMランタイム作った

- 勉強目的だったが色々頑張ったので割と作り込まれてる
- ruby.wasm も動.....!!!????
- 興味ある方、Contribution 歓迎です!



今後やりたいことなど

- テスト不足を対応
 - WASM Core specをちゃんと満たした!と言いたい
 - 満たすか? のテストは自動実行できるので対応
 - → WebAssembly specification, reference interpreter, and test suite
- あとはパフォーマンス向上とか